対象年度	令和 2年度		総合計画実施計画策定及び行政評価シート					
事務事業名	市内巡回バス運行事業					予算事業名	市内巡回バス運行事業費	
予算科目	会計	01	款	項	目	事業	要求区分	根拠法令
			03	01	04	6001	経常経費	
総合計画体系	2安全で住みやすさを実感できるまちづくり(都市・環境)					事業の区分	主要事業	
	2-3便利で快適に移動できるまちづくり(道路・公共交通)						重点事業	
	②公共交通ネットワークの強化					担当課係等	長寿福祉課	
3交通弱者等の交通手段の確保					長寿支援係			
事業期間	継続 (平成16年度～令和 4年度)							
【めざす姿(意図・どのような状態になるのか)】					【事業開始のきっかけや他市の状況など】			
公共交通として安定した運行を図る。					市内を運行していた民間路線バスが廃止され、その公共交通空白地域の補完のため、平成16年5月、市政50周年事業の一つとして試行開始された。			
【手段(事業内容・どのようなことを行うのか)】					【対象(だれに対して・何に対して行うのか)】			
交通弱者である高齢者等の日常的な公共交通手段として、市内病院や公共施設等を結ぶ8路線を設定し、休日等を除き、市内巡回バスを運行する。					市内を移動する方			
					【事業をとりまく環境の変化】			
					試行であることと、当初想定される主な利用者が高齢者ということと、高齢福祉担当で事業を実施してきた。しかしながら、利用者の多様化が進み、路線及び運行ダイヤにおいて充実してきており、市の公共交通の一つとなっている。			
【令和 2年度 事業内容】			【令和 3年度 事業内容】			【令和 4年度 事業内容】		
新庁舎移転にあわせて、公共交通部署において、運行業務委託、運行ダイヤ及び路線の見直し等を検討する。			公共交通として安定した運行を図る。老朽化した車輛を廃車し更新する。			公共交通として安定した運行を図る。老朽化した車輛を廃車し更新する。		

■事業費

		H30年度	R01年度				
財源内訳	国庫支出金	0	0				
	県支出金	0	0				
	地方債	0	0				
	その他	0	0				
	一般財源	16,935	13,379				
歳入計(千円)		16,935	13,379				
歳出内訳	節(番号+名称)	金額(千円)	金額(千円)				
	11 需用費	2,957	3,424				
	12 役員費	299	202				
	13 委託料	9,830	9,646				
	14 使用料及び賃借料	4	82				
	18 備品購入費	3,758	0				
	19 負担金補助及び交付金	10	0				
	27 公課費	77	25				
	歳出計(千円)(A)		16,935	13,379			
	伸び率(%)			-20.99			
備考	総合計画79ページ 予算書79～80ページ						

平成30年度行政評価シート

■指標

種類	指標名	単位		H30年度	R01年度	R02年度
活動 指標	巡回バス運行回数	回	目標	8,981.00	8,981.00	8,981.00
	年間の巡回バス運行回数（臨時便は含まず）		実績	8,800.00	0.00	0.00
			目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00
成果 指標	巡回バス利用者数（延べ人数）	人	目標	26,000.00	27,000.00	28,000.00
	年間の巡回バス利用者者延べ人数		実績	26,683.00	0.00	0.00
			目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00

■事業評価

必要性	事業の必要性	A 必要性は高い	金融機関や商店へのアクセスの確保や、市内の移動手段として必要性は高い。
妥当性	実施主体の妥当性	C 見直す必要がある	車両の安全管理、巡回バスの安定運行、乗務員の確保等を図るために、民間企業への業務委託も検討する必要がある。
	手段の妥当性	A 妥当である	市内の移動手段として幅広い方が利用できることから、事業実施の手段として妥当と考える。
効率性	コストの効率性・人員効率	B どちらとも言えない	シルバー人材センターから安価に乗務員の派遣を受けており、コストの効率性は高い。しながら、日常点検等を実施するにあたり、整備管理者等を配置する必要があることから、直営事業実施の場合、人員効率は良くない。
公平性	受益者の偏り	A 偏りは見られない	誰でも利用できるため、偏りは見られない。
有効性	成果向上の余地	A 上がっている	利用者数は増加しているため、事業成果は上がっているといえる。
進捗度	事業の進捗	A 順調である	平成28年1月から2台体制から3台体制に移行してから、利用者数は年々増加している。
総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください			
<ul style="list-style-type: none"> 乗務員の確保 他公共交通機関との競合 直営実施での運行管理の限界 			
対応策提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか バス事業における安全管理が課題となっている今、直営実施での管理は限界を迎えつつある。また、独自に事業拡大を続けてきたが、自治体が市内全域の公共交通を全て維持管理する事は不可能なため、今後は市内公共交通機関との連携が不可欠となる。			

■方向性

1次評価（1次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☒ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了
改革・改善の具体的内容（改革案・実行計画） 交通弱者に対して交通手段を確保する公共福祉の目的で運行しているが、運転手の確保が困難となっているほか安全管理面にも課題があることから、旅客自動車運送事業者に業務委託する方向で「結城市地域公共交通会議」において検討することが必要である。
2次評価（2次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☐ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了
企画調整会議の意見・考え方（1次評価者と同じ場合も記入） 関係各課との調整により進める。